

仙北市教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書
(令和2年度事業)

令和3年12月
仙北市教育委員会

目 次

1. 点検・評価の趣旨	1
2. 点検・評価の実施	1
3. 点検・評価の方法	1
4. 点検・評価の対象事業	2
5. 外部評価をしていただいた有識者	2
6. 点検・評価の事務事業評価シート	3

1. 点検・評価の趣旨

仙北市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、仙北市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する事務の管理執行状況について、点検及び評価を実施し、その結果を議会に報告するとともに、公表することになりました。

2. 点検・評価の実施

点検・評価の対象とする事務は、令和2年度に教育委員会が実施した事務事業のうち、教育行政の推進上重要な6事業を選定し点検・評価を実施しました。

3. 点検・評価の方法

事務事業の点検・評価は、事務事業評価シートにより次の方法で行いました。

- (1) 有効性、効率性及び必要性の観点から点検・評価を行うものとし、行政評価要綱に定める評価表により、各種指標を用いて実施します。
- (2) 教育委員会事務局の各課職員は、所管する事務事業について、課長級職員の意見等を踏まえ、教育目標、基本方針及び重点項目の取り組み状況を勘案し、事務事業点検評価の第一次点検評価を行います。
- (3) 第一次点検評価の客観性及び信頼性を確保するため、第三者による仙北市教育委員会事務事業評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、第一次点検評価結果について意見を聴取します。
- (4) 前3号により点検・評価した結果並びに評価委員会の意見を踏まえ、総合的な点検・評価を行います。

4. 点検・評価の対象事業

- (1) 仙北市学校施設長寿命化計画策定事業費
- (2) キャリア教育・ふるさと学習支援事業費
- (3) 仙北市学教教育バックアップ事業費
- (4) 給食センター管理運営費
- (5) 学校図書館支援事業費
- (6) 常設・企画展示費

5. 外部評価をしていただいた有識者

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、次の3氏の方々から評価していただきました。

佐藤正美	仙北市社会教育委員長
米澤鐵夫	角館町平福記念美術館運営審議会委員長
三浦政喜	仙北市小中学校長会長

参考条文

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

仙北市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書

令和2年度事業評価（二次評価）一覧表

No.	評価対象事務事業	評価実施課名	事業概要	一次評価	二次評価	二次評価意見
1	仙北市学校施設長 寿命化計画策定事業費	学校教育課	学校施設を取り巻く現状を把握し、施設の目指すべき姿を見据えて課題などを整理した。また、築年数や劣化状況等の総合的な観点から施設改修の優先順位を決定した。	A	A	<p>●児童の減少に伴う施策を行っている。</p> <p>●学校を取りまく環境は地域の行事等でのまとまりが大切だ。地域住民を取り込み学校周囲の整備を行えればと考える。児童生徒が減少しているなか速やかにその現状を市民に周知して、統廃合、複式に対処していくことでスムーズに進むと思う。</p> <p>●本事業により、現存の学校施設の機能維持と安全確保のために必要な経費が、具体的かつ客観的に示された。この後の児童生徒数の推移を見据え、市内小中学校の在り方を検討する際に重要なデータであり、継続実施が求められる。</p>
2	キャリア教育・ふるさと学習支援事業費（小・中）	学校教育課	各小・中学校が行う「ふるさと学習」と「キャリア教育」の充実のために体験活動の充実と学習活動の推進を図る。	A	A	<p>●コロナウイルス対策によるリモート業務により、首都圏集中が崩れたので指導もしやすい時になったのではないかな。</p> <p>●地域の種々事業・行事等に企画されて交流・絆がうまれ継承される。朝に児童から「おはようございます」と声かけがあるとすがすがしい。「おはようございます」、「こんにちは」は一日の気持ちが良い。ひとことで人と人とのやさしさにつながっていくと思うので、児童生徒に励行してもらえればと思う。</p> <p>●未来の仙北市や地域を支える意欲と高い志にあふれる子どもを育むためには、小中学校段階でのキャリア教育の視点を重視したふるさと学習の充実が不可欠である。また、本事業は市内各小中学校の特色づくりにも寄与している。今後ますますの財政的支援の拡大が望まれる。</p>

No.	評価対象事務事業	評価実施課名	事業概要	一次評価	二次評価	二次評価意見
3	仙北市学校教育バックアップ事業費	北浦教育文化研究所	読み語り、作物栽培指導、図書整理、総合学習外部講師など、児童生徒の学びを深めるよう教育活動の支援を行う。	A	A	<p>●学校と地域が共存している姿が見られる。</p> <p>●様々な分野の方々と出会い、体験して、今後の活動・活躍に結びつくのでありがたい。ご協力くださる皆様に感謝申し上げます。あいさつ、対話が広がり大変によいと思う。</p> <p>●令和の時代の学校には、地域と協働し、人的・物的資源を教育活動に有効活用しながら、学校を核とした地域コミュニティの活性化を図るという役割も求められている。本事業は、学校・家庭・地域がビジョンを共有し、地域全体で子どもを育む体制づくりにもつながっている。</p>
4	給食センター管理運営費	総合給食センター	施設の維持管理業務を実施する。調理業務等（運搬を含む）については、民間業者へ業務委託している。	A	A	<p>●全て民間委託するのは、事故がおきた時の対処が難しいのではないかと。</p> <p>●児童生徒の健康と体力向上を考慮しつつ安全に気づかい毎日毎日ご苦労様です。米飯も市の生産者からのお米を使用しているとのことで農家さんもうれしく、はげみになる。今後もハサップ解除にならないことをお願いしたい。</p> <p>●総合給食センターの稼働により、米飯の供給が可能になり、更に美味しく、安全安心な給食の提供が可能になっている。児童生徒数減少に係る栄養教諭の減配については、県教育委員会への加配要請を粘り強く継続する必要がある。</p>

No.	評価対象事務事業	評価実施課名	事業概要	一次評価	二次評価	二次評価意見
5	学校図書館支援事業費	学習資料館・イベント交流館	学校図書館支援員2名が市内小中学校を定期的に訪問し、図書の新注・書架整理等、学校図書館の環境整備作業を行い、各校の図書担当教諭の業務を補う。	A	A	<p>●スマホの時代でも行間を読める読書は情操教育からも必要と思われる。</p> <p>●市内11校を支援員の2名が月2～3回定期的にまわって学校図書館に係ることにたずさわって児童生徒がいつでも気軽に楽しく利用できる環境づくりをして下さっていることに感謝している。</p> <p>●学校図書館支援員の定期的訪問により、市内全小中学校の学校図書館の環境整備の充実が図られ、そのことが、児童生徒の読書意欲向上に確実に結び付いている。</p>
6	常設・企画展示費	平福記念美術館	①常設展示の開催（通年） ②企画展の開催（5回）	A	A	<p>●市民以外の人でも無料にして入館者が多くなれば、職員も仕事意欲がわくと思う。データとしてコロナ禍で入館者数が増えている。</p> <p>●すばらしい樹木のある庭園を通り美術館に入り、地元の小田野直武、平福父子はじめ、たくさんの画家の作品に会えることに喜びと感謝している。長年続いている児童生徒美術展を催し、美術教育の向上に努力している。これからも、先人、現役全ての作品等の保全・展示活動をお願いしたい。</p> <p>●コロナ禍における運営には、苦悩続きのことと思われる。感染状況にやや落ち着きの兆候が見られた所での新種の変異株の出現であり、まだまだ予断を許さない状況が続くようである。新型コロナウイルス感染症の終息を、ただただ祈るばかりである。</p>

事務事業評価シート

評価対象年度 令和 2 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	仙北市学校施設長寿命化計画策定事業費			
担当課係名	学校教育 課	管理 係	作成者	丹野 広史
第2次仙北市総合計画での位置づけ	施策の大綱	個性豊かな心を育むまち		
	基本計画	教育文化		
	主要施策	学校教育の充実		
予算費目	一般 会計	10 款 教育費	1 項 教育総務費	2 目 事務局費
事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 2 年度		新規/継続の区分	新規
性質区分	<input type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input checked="" type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input checked="" type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市内小・中学校(11校)の校舎及び屋内運動場
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	学校施設の中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図るとともに、学校施設に求められる機能や性能を満たす管理の方向性を明らかにすることを目的に計画を策定したものである。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	学校施設を取り巻く現状を把握し、施設の目指すべき姿を見据えて課題などを整理した。また、築年数や劣化状況等の総合的な観点から施設改修の優先順位を決定した。

【事務事業の推移】

		項 目	単 位	2年度実績		
効果	活動指標	学校施設改修の優先順位を決定	目標	項目	1	
			実績	項目	1	
			達成度		100.0%	
	成果指標	学校施設長寿命化計画の策定	目標	項目	1	
			実績	項目	1	
			達成度		100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費	2年度決算額(千円)		
	事業費(人件費を除く)(A)			4,400		
	人 件 費 (B)		—	406		
	職 員 数		—	0.05		
	職員平均人件費		—	8,128		
	(A)+(B) 投下コスト		—	4,806		
	財源内訳	国庫支出金			0	
		県支出金			0	
		地方債			0	
		その他			0	
		一般財源			4,806	
単 位 コ ス ト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	4,806,000		
	市民1人当たりのコスト(円)		—	192		

【事務事業の今までの成果】

学校施設の劣化状況及び改修費等、施設毎に俯瞰した資料がなかったが、策定したことにより中長期的な市内11校の改修計画を立案する資料となっている。また、少子化に伴い児童生徒の減少が予想される中で市内全体での学校の在り方の検討資料ともなっている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	公共施設等総合管理計画に基づき、学校施設の長寿命化計画を令和2年度内に策定する事となっている。また、文部科学省は学校施設環境改善交付金の交付を受ける地方公共団体に対して学校施設の長寿命化計画に基づく施設整備計画の提出を義務づける。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	市内小中学校の統合・再編など、学校の在り方について今後検討する予定であり、それにあわせて学校施設長寿命化計画のパブリックコメントの実施も検討する。

【一次評価】

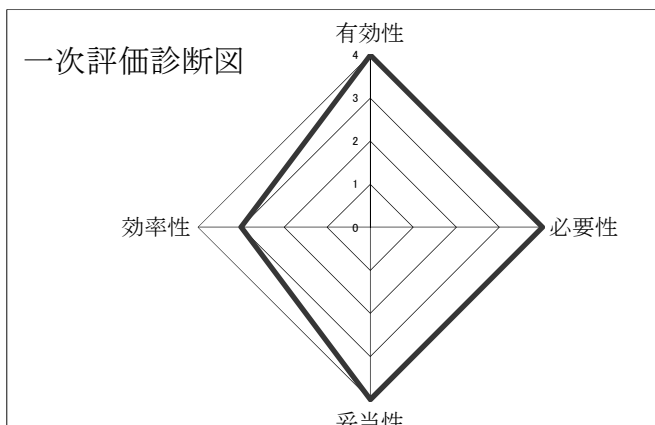
判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	新たな事業であり、現状のまま継続実施していく。 社会構造や施設に対する需要の変化、新たな取り組み（学校のあり方の検討）の結果等に対応するため、原則5年毎に見直しを行うが、必要に応じて見直し期間を短縮する。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	学校施設長寿命化計画の策定により、今後の学校施設の機能維持と安全確保のために必要な経費が具体的かつ客観的に示された。また、これからの学校のあり方を検討する際の貴重なデータを得ることができた。本計画については今後、必要に応じて見直しを行う。



事務事業評価シート

評価対象年度 令和 2 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	キャリア教育・ふるさと学習支援事業費			
担当課係名	学校教育 課	学校教育 係	作成者	鈴木 徹
第2次仙北市総合計画での位置づけ	施策の大綱	個性豊かな心を育むまち		
	基本計画	教育文化		
	主要施策	学校教育の充実		
予算費目	一般 会計	10 款 教育費	2.3 項 小・中学校費	2 目 教育振興費
事業期間	平成 25 年度 ~ 令和 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス	<input type="checkbox"/> 公共事業	<input type="checkbox"/> 施設維持管理	<input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理
根拠法令等				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託)	<input type="checkbox"/> 民間委託(全部)	<input type="checkbox"/> 補助

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市内小・中学校の児童生徒
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	仙北市の小・中学校の教育目標である「ふるさとを愛し、豊かな心、確かな学力、健やかな体を持ち、未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子ども」のうち、特にふるさとへの愛着と誇りをもち望ましい職業観・勤労観を身に付けた児童生徒を育てる。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	各小・中学校が行う「ふるさと学習」と「キャリア教育」の充実のために体験活動の充実と学習活動の推進を図る。

【事務事業の推移】

		項 目	単位	2年度実績		
効果	活動指標	仙北市の学校教育の重点を反映し、その育成に資する内容の事業を実施した校数	目標	校	11	
			実績	校	11	
			達成度		100.0%	
	成果指標	仙北市の学校教育の重点を反映し、その育成に資する内容の事業を実施した校数	目標	校	11	
			実績	校	11	
			達成度		100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費	2年度決算額(千円)		
	事業費(人件費を除く)(A)			2,256		
	人 件 費 (B)		—	81		
	職 員 数		—	0.01		
	職員平均人件費		—	8,128		
	(A) + (B) 投下コスト		—	2,337		
	財源内訳	国庫支出金			0	
		県支出金			0	
		地方債			0	
		その他			0	
		一般財源			2,337	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	212,455		
	市民1人当たりのコスト(円)		—	93		

【事務事業の今までの成果】

■角館小学校のさくらの町の案内人 ■白岩小学校の地域住民とのふるさと交流活動 ■生保内小学校の仙北市をPRする一連の活動 ■神代小学校の花壇や学校園等での学校環境美化活動 ■西明寺小学校ネギ植えからその販売までを行う一連の活動 ■松木内小学校のたんぼアートと紙風船制作 ■角館中学校の桜・お祭り等のふるさと学習 ■生保内中学校の田沢湖の鳴砂再生体験活動 ■神代中学校の4つのボランティア活動 ■西明寺中学校の鎌足和紙紙すき体験活動 ■松木内中学校のボランティアを中心とする地域活性化に寄与する活動等、地域貢献・地域連携の活動を通して、SDGsを意識した取組が図られている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	県の「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」では目指す姿を「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」としてふるさと教育、キャリア教育は一層重視する方向にある。他の自治体も同様である。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	この事業によって児童生徒の教育指導面の効果が大きいという学校からの声があると同時に保護者・地域住民からも事業の継続・充実を要望する声が多い。

【一次評価】

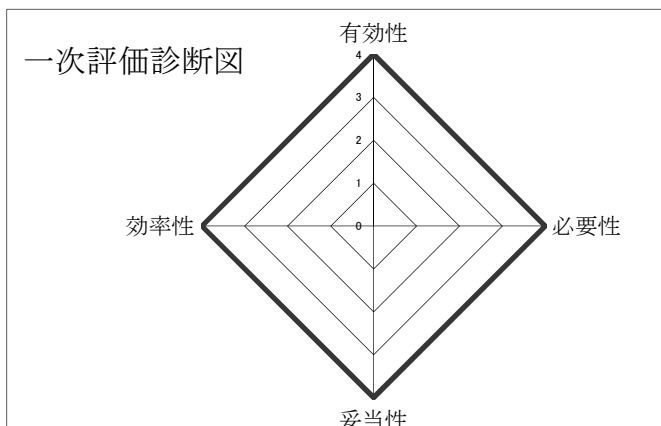
判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	長期的視野に立った場合、この事業の目的は、将来ふるさと仙北市に還ってふるさとのよさを活かして起業するような人材を育成することにある。各学校の特色ある取組は財政的支援の拡大で一層充実させることが見込まれる。よって、事業内容等を精査・充実させながら財政的支援を拡大することが望ましいと考える。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	各地域や学校の特色に応じた活動を展開することができ、児童生徒の教育指導面の効果が大きいという学校からの声があった。子どもたちの心に残る学習になるように今後も学校と連携を図りながら、学習内容や体験内容等のソフト面の充実を図っていきたい。



事務事業評価シート

評価対象年度 令和 2 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	仙北市学校教育バックアップ事業費				
担当課係名	北浦教育文化研究所		作成者	伊藤 昭光	
第2次仙北市総合計画での位置づけ	施策の大綱	個性豊かな心を育むまち			
	基本計画	教育文化			
	主要施策	学校教育の充実			
予算費目	一般	会計	10款	教育費	1項 教育総務費
				5目	北浦教育文化研究所費
事業期間	平成 26 年度 ~ 令和 年度		新規/継続の区分		継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				
根拠法令等	「仙北市学校教育バックアップ事業」実施要項				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市民及び近隣市町の居住者、市内小・中学校の児童生徒
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	<ul style="list-style-type: none"> 学校における教育活動の円滑な実施。 仙北市民等の学校教育等への理解の促進、社会貢献意欲の醸成。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	読み語り、作物栽培指導、図書整理、総合学習外部講師など、児童生徒の学びを深めるよう教育活動の支援を行う。

【事務事業の推移】

		項 目	単 位	2年度実績		
効果	活動指標	ボランティアスタッフ数	目標	人	64	
			実績	人	64	
			達成度		100.0%	
	成果指標	学校での支援回数	目標	回	600	
			実績	回	591	
			達成度		98.5%	
投下コスト	項 目		総事業費	2年度決算額(千円)		
	事業費(人件費を除く)(A)			308		
	人 件 費 (B)		—	1,219		
	職 員 数		—	0.15		
	職員平均人件費		—	8,128		
	(A)+(B) 投下コスト		—	1,527		
	財源内訳	国庫支出金			0	
		県支出金			0	
		地方債			0	
		その他			0	
		一般財源			1,527	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	23,859		
	市民1人当たりのコスト(円)		—	61		

【事務事業の今までの成果】

- ・学校における学びが深くなり、様々な見方や考え方ができるようになった。
- ・地域の先生が来校して下さるのを心待ちにしており、学習意欲が高まった。
- ・地域住民と児童生徒のつながりができ、出会った際にあいさつや会話を交わすなど地域が活性化した。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	「開かれた教育課程の実施」が国から求められており、仙北市でも地域学校協働活動の重要性が地域住民から認識され始めている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちとの活動がとても楽しく、生きがいにもなっている。 ・子どもたちの笑顔から元気をもらうことができる。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	学校教育に関わってくださった地域住民の方にとって、自己有用感を感じられる活動になっている。また、子どもたちにとっては、様々な見方や考え方を学べるよい機会となっている。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

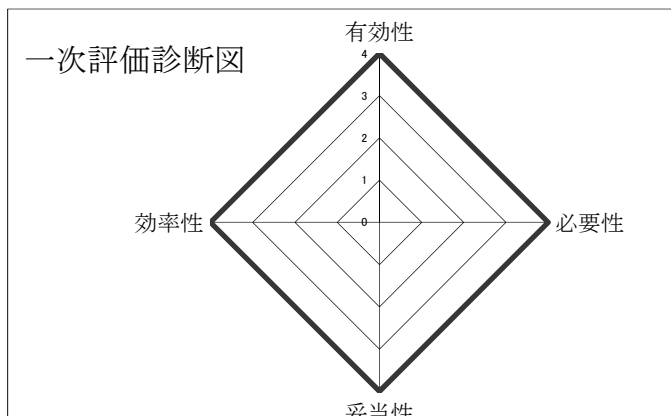
※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

--

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	多くの地域の方々に学校に来ていただき、子どもたちの学びを深めるための教育活動の支援をしていただいた。地域住民にとっては自己有用感を感じられる活動となっている。今後も地域と一体となった活動を進めていきたい。



事務事業評価シート

評価対象年度 令和 2 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	給食センター管理運営費(車両維持管理費及び給食材料費含む)				
担当課係名	総合給食センター		作成者	鈴木 勝久	
第2次仙北市総合計画での位置づけ	施策の大綱	個性豊かな心を育むまち			
	基本計画	教育文化			
	主要施策	学教教育の充実			
予算費目	一般	会計	10款	教育費	6項 保健体育費 3目 学校給食費
事業期間	平成	年度	～	令和	年度
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				
根拠法令等	学校給食法				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市内の小・中学校及び大曲支援学校せんぼく校の児童生徒
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	児童生徒の健康保持増進と体力の向上を目指し、安全でおいしい学校給食を提供し、食に関する指導の充実、安全管理と衛生管理の徹底に努める。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	施設の維持管理業務を実施する。調理業務等(運搬を含む)については、民間業者へ業務委託している。

【事務事業の推移】

		項 目	単 位	2年度実績		
効果	活動指標	年間給食数	目標	食	343,180	
			実績	食	351,044	
			達成度	%	102.3%	
	成果指標	残飯量	目標	kg	10,000	
			実績	kg	10,565	
			達成度	%	94.7%	
投下コスト	項 目		総事業費	2年度決算額(千円)		
	事業費(人件費を除く)(A)			207,171		
	人 件 費 (B)		—	8,128		
	職 員 数		—	1.00		
	職員平均人件費		—	8,128		
	(A)+(B) 投下コスト		—	215,299		
	財源内訳	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
一般財源			215,299			
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	613		
	市民1人当たりのコスト(円)		—	8,583		

【事務事業の今までの成果】

調理業務等を委託し、学校給食の質の低下を招くことなく、安全でおいしい給食を提供している。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	学校給食業務の運営合理化を推進するため、給食業務等を民間委託している自治体が増えている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	学校給食の質の低下を招くことのないよう十分に配慮し、安全でおいしい栄養バランスのとれた学校給食の提供を望んでいる。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	学校給食は有効性や必要性は十分に認められる。 高評価ではあるが、施設の運営について業務委託内容に含めるか検討が必要である。 また、児童生徒の減少で栄養教諭が減るため学校給食の提供に多大な影響が生じる。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

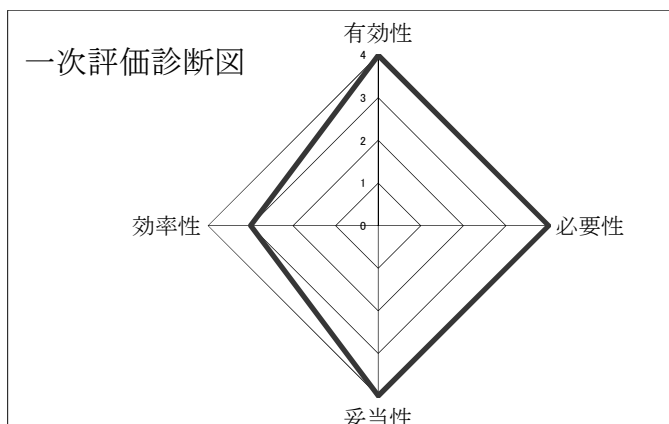
※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

--

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	学校給食の質の低下を招くことなく、安全でおいしい給食を提供することができた。栄養教諭について、安心安全な給食の提供や食物アレルギー対応等のため、現状の職員数を維持していきたい。



別表第1（第5条関係）

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度 令和 2 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	学校図書館支援事業費				
担当課係名	学習資料館・イベント交流館	業務・管理	係	作成者	松橋 幸太郎
第2次仙北市総合計画での位置づけ	施策の大綱	個性豊かな心を育むまち			
	基本計画	教育文化			
	主要施策	読書環境の充実			
予算費目	一般	会計	10款	教育費	5項 社会教育費
					5目 学習資料館及びイベント交流館費
事業期間	平成 24 年度 ~ 令和 年度		新規/継続の区分		継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				
根拠法令等	子どもの読書活動の推進に関する法律、学校図書館法、仙北市市民読書条例、仙北市子ども読書活動推進計画				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営（一部民間委託） <input type="checkbox"/> 民間委託（全部） <input type="checkbox"/> 補助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民（児童・生徒）・図書資料
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	学校図書館が学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であることから、その整備と充実につとめる。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	学校図書館支援員2名が市内小中学校を定期的に訪問し、図書の発注・書架整理等、学校図書館の環境整備作業を行い、各校の図書担当教諭の業務を補う。

【事務事業の推移】

項 目		単 位	2年度実績		
効果	活動指標	児童生徒の学校図書館利用者数	目標 人	18,444	
			実績 人	19,454	
			達成度	105.5%	
	成果指標	学校図書館が児童生徒に貸出した冊数	目標 冊	21,518	
			実績 冊	23,116	
			達成度	107.4%	
投下コスト	項 目		総事業費	2年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)			3,189	
	人 件 費 (B)		—	13,005	
	職 員 数		—	1.60	
	職 員 平 均 人 件 費		—	8,128	
	(A) + (B) 投下コスト		—	16,194	
	財源内訳	国 庫 支 出 金			0
		県 支 出 金			0
		地 方 債			0
		そ の 他			0
		一 般 財 源			16,194
単 位 コ ス ト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	832	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	646	

【事務事業の今までの成果】

学校図書館支援員2名が市内小中学校を月に2～3回定期的に訪問し色々な作業をすることにより、学校図書館の環境が整備され、利用する児童・生徒も増えている。また、図書委員会等の活動も活発になってきている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	平成26年6月に学校図書館法が改正され、「学校司書の法制化」が実現された。しかし、学校司書の配置は努力目標であり、学校への完全配置にはまだまだ時間がかかりそうだ。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	各小中学校における学校図書館支援員の活動は非常に効果を上げており、学校関係者・児童生徒からも厚い信頼と高い評価を得ている。

【一次評価】

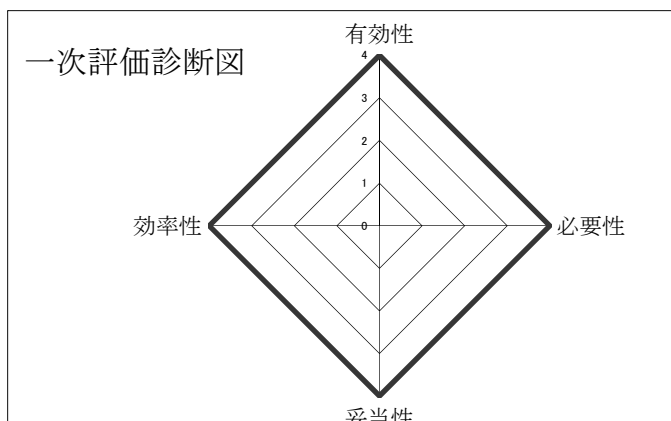
判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	学校図書館の環境整備の充実、学校図書館管理システム・横断検索システムの有効活用、学校サイドからの信頼等を踏まえ、市内全小中学校の図書館活動は確実に活性化しつつあることからこの判定とした。
	B1 見直しの上で継続（拡大）	
	B2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B3 見直しの上で継続（縮小）	
	C1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	学校図書館支援員の創意工夫により、子どもたちにとって利用しやすく本を読んでみたくなるような魅力ある学校図書館の環境整備が行われているという学校からの声があった。



事務事業評価シート

評価対象年度 令和 2 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	常設・企画展示費			
担当課係名	平福記念美術館 課	事業 係	作成者	小松 亜希子
第2次仙北市総合計画での位置づけ	施策の大綱	個性豊かな心を育むまち		
	基本計画	教育文化		
	主要施策	歴史的文化遺産の活用 1		
予算費目	一般 会計	10 款 教育費	5 項 社会教育費	6 目 美術館費
事業期間	令和 年度 ~ 令和 年度	新規/継続の区分		継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営（一部民間委託） <input type="checkbox"/> 民間委託（全部） <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	来館者全員
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	常設展を開催し、多くの来館者に郷土が誇る日本画家・平福穂庵・百穂父子のことを知ってもらおうと共に、企画展では多種多様な美術作品を展示することで多くの人に芸術への関心を持ってもらいたい。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	①常設展示の開催（通年） ②企画展の開催（5回）

【事務事業の推移】

		項 目	単位	2年度実績		
効果	活動指標	常設展・企画展の開催日数	目標	日	302	
			実績	日	258	
			達成度		85.4%	
	成果指標	入館者数	目標	人	12,000	
			実績	人	14,131	
			達成度		117.8%	
投下コスト	項 目		総事業費	2年度決算額(千円)		
	事業費（人件費を除く）(A)			8,448		
	人 件 費 (B)		—	19,914		
	職 員 数		—	2.45		
	職員平均人件費		—	8,128		
	(A) + (B) 投下コスト		—	28,362		
	財源内訳	国庫支出金			0	
		県支出金			0	
		地方債			0	
		その他			0	
		一般財源			28,362	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	109,930		
	市民1人当たりのコスト(円)		—	1,131		

【事務事業の今までの成果】

常設展を開催していることで、県外からの来館者に平福穂庵・百穂父子のことを知ってもらうことができている。また、企画展を開催したことで、平福記念美術館を知らなかった人に覚えてもらうこともできて、少しずつではあるがリピーターも増えてきている。仙北市民を通常無料としていることで、市民の来館者も少しずつ増えてきている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	秋田県では2つ、秋田市には1つ公立美術館があり、それぞれで企画展を開催している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	平福父子作品をもっと充実させてほしいという声がある一方、平福作品にこだわらない企画展も開催していいのではという声もある。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	令和2年度はコロナ禍による感染予防対策のため企画展を一つ中止せざるをえない状況だったが、年度途中から来館者全員無料としたこともあってか、入館者数が目標値を上回った。今後も企画展の中止がない限りは現状通りに継続していく。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

--

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために企画展を一つ中止したものの、入館者数が目標値を上回ることができた。本事業は児童生徒にとっても貴重な教育の場であるので、今後も子どもたちの鑑賞を促進していきたい。

